

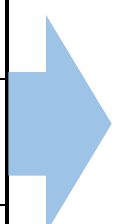
令和元年度 ガイドライン評価改善シート

施設名 ( スタジオアルテ生活介護 ) 作成日時 ( 令和元年 9月 日 )

代表	施設長	本部
印		

H29年度 改善への取り組み	情報の共有・周知・徹底に向けてコミュニケーションがとりやすい関係の構築
今年度の施設目標	誰もがわかりやすく過ごしやすい、安心感を与えられる環境づくりとQOLの向上に努める

項目	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での共通点	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での相違点
環境・体制整備	活動スペースの確保ができています	人員配置・専門性 バリアフリー化の配慮 (誰しもが過ごしやすとは限らない) 保護者に対するアンケート調査の実施
業務改善	第三者による外部評価 研修機会の確保	アンケート調査の実施・HPへの公開
適切な支援の提供	アセスメントの実施、支援計画の作成 プログラム活動の立案、工夫 利用時間に応じた支援の設定 支援開始前、終了後の職員間の打ち合わせ	日々の記録と支援の検証、改善への連動が不十分
関係機関や保護者との連携	児童の状況や課題などの共通理解 学校との情報共有 協議会への参加	関係機関との連携の機会が少ない (就学前・卒業後の利用事業所、学校など) 地域との交流
保護者への説明責任等	支援の内容、利用負担についての説明 保護者に対する面談、育児に対する助言 会報やHPなどによる情報発信 個人情報への配慮	保護者会の開催、保護者同士の連携の場 苦情処理の体制 意思の疎通、情報伝達への配慮
非常時等の対応	緊急時対応マニュアル等の策定 避難訓練の実施 ヒヤリハットの共有 虐待防止のための取り組み	緊急時対応・防犯・感染などのマニュアルの周知徹底が不十分 やむを得ない場合の身体拘束についての説明が支援計画書に記載されていない 非常災害時に備えての取り組みが詳細に説明されている



分析検討してみた事業所の強み
<ul style="list-style-type: none"> <li>●個々に合わせた支援、スペースの確保</li> <li>●個別活動と集団活動、集団の中での個別対応のバランスに配慮している</li> <li>●スタッフ間の情報共有・意見交換が行いやすい雰囲気</li> </ul>

分析検討してみた事業所の改善点
<ul style="list-style-type: none"> <li>●他事業所や関係機関との連携が少ない。</li> <li>●日々の支援の内容を記録しているものが、その後に反映していない</li> <li>●非常時の対応について、保護者向に向けての説明が不十分</li> <li>●保護者交流・地域交流の機会が少ない</li> </ul>

事業所の改善への取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>●他の事業所と併用している児童に関しては、支援計画作成のタイミングで情報の共有を図る。</li> <li>●支援の流れに沿って必要な書類等の整理を行い、それに基づき環境設定や支援の方向性を見直し再構造化を行っていく</li> <li>●活動全般 (課題・プログラム活動・非常時の対応) について、ねらいや目的、活動を通して見えてきたもの、気づきなど保護者への説明はわかりやすい形で文書にまとめる。</li> </ul> <p>※防災時の対応・連絡方法など、書面での連絡 (お渡し時に口頭で説明) → 実際行ったうえでの評価・確認 (できたかどうか) → 今後についての流れで最後まで対応していく</p>

自己評価を行っての事業所としての感想など
<p>日々の業務に追われ、流されてしまっている部分が多いと感じました。日頃子ども達の様子から、支援の方法についてのディスカッションは行われていますが、それが書面として残されていなかったり、周知の仕方が甘かったりと支援者に対しても保護者に対しても十分な対応ではなかったと思います。些細なことからの気づきや発見も大切に拾い上げ支援につなげていくこと、その情報がかかわるすべての人たちが共有出来る事、そのために自分たちの事業所が出来る事、役割やスタンスの確立など一つ一つ丁寧に積み重ねて行きたいと考えています。</p>

来年度の施設目標	<p>児童・保護者・支援者にとっての「わかりやすさ」の追求。(風通しの良い環境づくり)</p> <p>日常生活動作をはじめとする、生活に密接する行為の自立に向けた取り組み。(QOLの向上)</p>
----------	--